

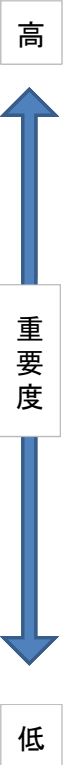
「人・自然・文化のハーモニー! 奏でつづける遠山川」 目標の具現化シート

【河川情報】

平成25年2月28日
第5回「遠山郷いい川づくり」会議

補足資料

目標の具現化	河川情報シート		基本事項の確認	全体の整備方針		モデル事業5年間の基本方針(案)	ハーモニー(協働)、コラボレーション、パートナーシップ
	大項目	目標事項の整理結果 川づくりの目的・目標・回復すべきもの		目標達成のポイント	全体の整備方針		
奏でつづける	①災害	将来に渡って健やかに生活	災害に強い構造 護岸整備	△ 既設護岸、既設水制は健全 △ 一部に護岸なし	1 護岸未施工区間の解消(防災対策)	→ ①護岸工 かご工、石積み工	→ かがら大橋～中橋間の護岸未整備箇所を整備
奏でつづける	②施設	地域に無くてはならない施設を守る 自然の雰囲気を残す川 生活の糧を守る	橋梁の保全 自然石を利用した構造 人家の保護 周辺の重要施設の保護 水害を起こさない	△ 中橋直下の河床低下 △ 一部既設護岸に自然石利用 △ 一部に護岸なし △ 一部に護岸なし	2 河床の安定化(防災対策) 3 景観への配慮(自然石の利用) 1	→ ②帯工 本来の河床へ復元 → ③景観配慮工 自然石の利用	→ 遠山中学校横、中橋下流の道の駅前(人が集う場所)へ整備 → 護岸、帯工等へ自然石を使用し景観へ配慮する
奏でつづける・自然	③治水	どんな水量でも安心な川 自然のまま、今のままの川 自然を生かし安らかに生活できる川 自然のまま安心して生活できる川 川を利用し共に生きる 川の変化に富む	河床勾配の安定 現在の護岸法線 流水部の蛇行、変化 護岸の設置 自然石の利用 災害のない護岸 景観の良い護岸 自然を残し自然石を利用 低水護岸 河床の安定化 変化のある河床形態 自然(巨石や砂)な形状、施設 中州、淵、瀬	△ 帯工設置区間は安定 ○ 既設断面は1/100確率を満足 △ 一部に護岸なし、一部河床低下 ○ 法線は現況固定 △ 一部に護岸なし △ 一部に護岸・帯工に自然石利用 △ 一部に護岸なし △ 一部に護岸・帯工に自然石利用 △ 一部に護岸・帯工に自然石利用 △ かがら大橋右岸に一部あり △ ・保育園前の帯工は機能確保 △ 中州、淵、瀬	2 4 変化のある河床(中州、淵、瀬) 5 流水部の蛇行、変化(自然な形状) 1 3 3 3 6 低水護岸、近づきやすい水辺 4 3 4 4	→ ④巨石設置工 水際のラインに配慮 水際の植生 → ⑤低水路工 変化のある水際 自然なみお筋 → ⑥低水護岸・河岸工 緩勾配河岸(自然石等覆土) 見えない低水護岸工 変化のある低水路	→ 水際ライン、低水路横断方向へ巨石設置(瀬、淵の整備) 中橋下流の道の駅前区間で平時の流量に対応した低水路工を整備 (左岸)和田大橋下流～ヘリポート間の高水敷にあわせ低水河岸を整備 (右岸)中橋下流の道の駅前前に低水河岸を整備 水際が一律(一筋)にならないように変化を付けて整備
人・自然・文化	④利用	自然の魚がたくさんみられる川 魚と人が共生できる川 河川空間と共生できる川(水辺) 自然で子供もふれあえる水辺 多くの人が集う川 いつでも誰でも利用できる川 地域コミュニティーの場所 情緒を感じ誰でも自然を満喫できる川 みんなが親しみやすい川	魚、釣り 安心、気軽、誰でも 近づきやすい水辺 観光施設との連携 植生、石 安心して遊ぶ 石 地域行事に利用 上下流、施設の周回 容易なアクセス 適正な維持管理 桜並木 遊歩道機能 観光利用(サイクリング、周回路) 水辺までの容易なアプローチ 人、車	○ 放流魚あり △ 道の駅からのアプローチあり ○ 道の駅前に階段護岸あり △ 自然植生、構造物に植石あり △ 小中学生は川遊びをする ○ 高水敷の利用あり △ 天端通路(管理用道路) ○ 高水敷の利用あり △ 左岸側、右岸の一部に植樹 △ 左岸側の一部にあり △ 道の駅からのアプローチあり × 高水敷の移動が不可となった △ 高水敷草刈り、桜の手入れ ○ 防火用水に利用(流量確保)	7 高水敷の利用 8 天端通路(管理用道路) 6 9 維持管理 10 河畔林整備(自然植生、桜並木等) 7.8 7.8 6 7.8 9 9	→ ⑦高水敷整備工 覆土、自然植生、通路 → ⑧管理用道路工 → ⑨河畔林整備工 護岸(天端)環境に配慮 水際環境に配慮	→ 和田大橋下流～ヘリポート間の左岸側に高水敷を整備 → 不連続区間の管理用道路を整備 → 維持管理 → 維持管理 → 維持管理 → 中学校前(左岸)、市営住宅前(右岸)の河畔林(自然林)を整備(間伐)
人	⑤活動	みんなで守る、地域で守る	河川空間の維持管理	△ 高水敷草刈り、桜の手入れ	9		
文化	⑥利水	安定的に利活用できる川	防火用水	○ 防火用水に利用(流量確保)	9		



【地域情報】

目標の具現化	地域情報シート		基本事項の確認	全体の整備方針		モデル事業5年間の基本方針(案)	ハーモニー(協働)、コラボレーション、パートナーシップ
	大項目	目標事項の整理結果 川づくりの目的・目標・回復すべきもの		目標達成のポイント	全体の整備方針		
奏でつづける	①防災	防災施設の安全で持続的な維持管理	維持管理	—	1 施設の維持管理 施設点検	→ ⑦管理用道路工	→ 不連続区間の管理用道路を整備 → 施設点検
奏でつづける	②施設	重要施設の安全で持続的な管理と利用	維持管理	—	1		
自然・人	③自然環境	遠山の自然、情景を保全(残す、守る) 遠山川の自然、環境を保全(残す) 田園、集落の保全 自然、環境豊かな水際の保全 川の状態、自然の水の流れを保全	今の原風景を守る 水環境、循環を守る 生活環境を守る 自然を残す 巨石、溪流	— — — — —	3 自然、環境等の維持、保全 3 3 3 3	→ ③景観配慮工 自然石の利用 ④巨石設置工 水際のラインに配慮 水際の植生 ⑤低水路工 変化のある水際 自然なみお筋 ⑥低水護岸・河岸工 緩勾配河岸(自然石等覆土) 見えない低水護岸工 変化のある低水路 ⑦高水敷整備工 覆土、自然植生、通路 ⑨河畔林整備工 護岸(天端)環境に配慮 水際環境に配慮	→ 水際ライン、低水路横断方向へ巨石設置(瀬、淵の整備) 中橋下流の道の駅前区間で平時の流量に対応した低水路工を整備 (左岸)和田大橋下流～ヘリポート間の高水敷にあわせ低水河岸を整備 (右岸)中橋下流の道の駅前前に低水河岸を整備 水際が一律(一筋)にならないように変化を付けて整備
文化・人	④文化	伝統ある祭りの伝承	後継者育成、伝承	○ まちづくり	6 文化の伝承		→ 周辺環境との一体化、地域連携、利活用 → 文化の伝承
人・文化	⑤観光	温泉と川の融合による集客 地域イベントの継承と創出	地域の連携 維持管理 おもてなし 後継者育成、伝承 地域の連携	△ 鯉のぼり — △ 花火大会、どんど焼き	5 3 6 5		
自然・文化・人	⑥景観	遠山郷と宿場町の保全と利用 四季折々の風景とサクラの活用 河川内の自然をそのままに 河畔と堤防の観光利用	維持管理 地域の連携 維持管理	△ 左岸は50年前から桜植樹 △ 高水敷の草刈り △ 左岸は50年前から桜植樹	3.5 3 3 5	→ ①護岸工 かご工、石積み工	→ かがら大橋～中橋間の護岸未整備箇所を整備
文化・人	⑦産業	地域に適した漁業や養殖 田や畑を守り持続させる 持続的な森の管理と利用	魚の生育環境 後継者育成	△ 毎年、巨石投入	7 魚類の生息しやすい環境 3.6 3	→ ④巨石設置工 水際のラインに配慮 水際の植生 ⑤低水路工 変化のある水際 自然なみお筋 ⑨河畔林整備工 水際環境に配慮	→ 魚類の生息しやすい環境
自然・人	⑧動植物	動物と供に生きる 野鳥の保護と環境の保全 自然の川魚の住みやすい環境づくり 桜を地域のシンボルとする	魚の生育環境 維持管理	△ 毎年、巨石投入 ○ 左岸は50年前から桜植樹	7 3 5		
文化・人	⑨歴史	歴史ある町並みの保全と観光利用 地域信仰の伝承と石仏管理	維持管理 意識の向上 後継者育成、伝承	— — —	3.5 6 6		

